

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 (特活)とんだばやし国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

「生活に必要な日本語」も結婚や離婚、帰化申請の手続き等、専門的な知識や特別な言葉に及び、日本語教室のボランティアにとってもこれらの専門的な日本語の指導に直面することもあると思われる。その中でも3月に発生した「東日本大震災」から考えられる災害時の専門的な日本語を地域に生活する外国人にどのように指導していくかを中心に、地域に生活する外国人にどのように情報を提供していくか教材作りを通じ考え、日本語学習のポイントを学び、日本語教育支援者のスキルアップを図る。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
8月5日 (金)15:00 ～16:00	(特活)とんだばやし 国際交流協会 事務所	真嶋克成 室井一彦 石田利伸 金和子 柳田英子 内海京子	・日程変更について ・講座参加者の呼びかけに ついて ・講座内容の検討	運営委員会の日程を当初の予定より変更、また講座自体の日程も変更することとなる。 また講座の参加者の呼びかけについて近隣の日本語教室関係者を中心に行うこととなる。 講座の内容については、災害時の内容を含め「ICTを活用とした日本語指導」、「どのように日本語を伝えるか」という大きく2つにわけて行うこととなる。
8月26日 (金)16:30 ～17:30	(特活)とんだばやし 国際交流協会 事務所	真嶋克成 室井一彦 石田利伸 金和子 柳田英子 内海京子 妹尾美千代 寺田美哉子	・前半7回目までの内容検討 ・日程について	・前半の「ICTを活用した日本語指導」について、きんきうえぶの2名を交えて検討する。日本語教材のみならず、翻訳や海外旅行などにも使えるアプリなども検討し、多くの材料を使って参加者に活用できるような講座を検討した。 ・日程については9月末から水曜日を中心の行うこととなる。

9 月 7 日 (水) 13:00 ～14:00	(特活)とんだばやし 国際交流協会 事務所	真嶋克成 室井一彦 石田利伸 金和子 柳田英子 内海京子	・講座の日程、期間等の報告 ・講座の内容	・別紙(日程表、チラシ)を配布し、日程等を報告。 ・講座の内容、講師等の説明。内容や日程などは変更の可能性があることも伝える。 ・その他意見交換等
9 月 13 日 (火) 15:00 ～16:00	(特活)とんだばやし 国際交流協会 事務所	真嶋克成 室井一彦 石田利伸 金和子 柳田英子 内海京子 妹尾美千代	・前半の講座(ICT講座)の内容について	・iPad を使用することを前提に、教材に成りうるものを検討。また、教材を作成することも視野にいれる。 ・災害伝言板も講座にいれる。 ・iPad の操作方法の講座も加える。
12 月 13 日 (土) 14:00 ～15:00	(特活)とんだばやし 国際交流協会事 務所	真嶋克成 室井一彦 石田利伸 金和子 柳田英子 内海京子 田中栄子	・後半の講座の進行状況について	・後半の講座の進行状況、参加者の様子など。 ・「やさしい日本語」について意見交換、質問等 ・今後の予定

【写真】



9 月 7 日



12 月 13 日

3 講座の内容について

- (1) 講座名 日本語ボランティア・スキルアップ講座
- (2) 開催場所 (特活)とんだばやし国際交流協会 学習室
 ア 講義 (特活)とんだばやし国際交流協会 学習室
 イ 実習 なし
- (3) 学習目標 日本語教育支援者のスキルアップを図る。
- (4) 使用した教材・リソース iPad、みんなの日本語、みんなの日本語絵カード、
 もっとしゃべろ！等
- (5) 受講者の募集方法 近隣の日本語教室への案内、チラシ配布
- (6) 受講者の総数 23 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
 (出身・国籍別内訳 日本 16 人, 中国 5 人, 韓国 1 人, ペルー 1 人)
- (7) 開催時間数(回数) 45 時間 (15 回)
 講義 45 時間 (15 回) 実習 0 時間 (0 回)
- (8) 参加対象者の要件 地域の日本語学習を支援しているボランティアスタッフ
 及び、興味関心のある方
- (9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
9 月 21 日 13:00～ 16:00	オリエンテーション	(特活)とんだばやし国際交流協会 前川 仁三夫 内海 京子 田中 栄子	5 名
9 月 28 日 13:00～ 16:00	ICT 講座 ・携帯災害伝言板 ・その他災害時での ICT の活用 について ・iPad の使用法	NPO法人きんきうえぶ 妹尾 美千代 (特活)とんだばやし国際交流協会 内海 京子 田中 栄子	10 名
10 月 5 日 13:00～ 16:00	ICT 講座 ・iPad の使用法 1 基本操作、専門用語など	NPO法人きんきうえぶ 妹尾 美千代 (特活)とんだばやし国際交流協会 内海 京子 田中 栄子	8 名
10 月 12 日 13:00～ 16:00	ICT 講座 ・iPad の使用法 2 前回の復習、iPad を使ったコミュニケーション方法など	NPO法人きんきうえぶ 妹尾 美千代 (特活)とんだばやし国際交流協会 内海 京子 田中 栄子	10 名

10月19日 13:00～ 16:00	ICT 講座 ・iPad の使用法3 前回の復習、日本語教材として 使えるアプリの紹介、教材作りについて(日本語テキストをスキャナーで取り込む)、等	NPO法人きんきうえぶ 妹尾 美千代 (特活)とんだばやし国際交流協会 内海 京子 田中 栄子	10 名
10月26日 13:00～ 16:00	ICT 講座 ・前回までの総復習 ・アプリの検索法 ・意見交換	NPO法人きんきうえぶ 妹尾 美千代 (特活)とんだばやし国際交流協会 内海 京子 田中 栄子	10 名
11月2日 13:00～ 16:00	ICT 講座 ・前回までの総復習 ・教材作成実習 ・意見交換	NPO法人きんきうえぶ 妹尾 美千代 (特活)とんだばやし国際交流協会 内海 京子 田中 栄子	7 名
11月5日 13:00～ 16:00	・前半 ICT 講座についての振り返り ・今後、教室での活用法について	(特活)とんだばやし国際交流協会 内海 京子 田中 栄子	4 名
11月9日 13:00～ 16:00	・東日本大震災における多言語 支援センターの取り組み ・多文化共生センター大阪での 活動等 ・意見交換	(特活)多文化共生センター大阪 田中 裕子 (特活)とんだばやし国際交流協会 内海 京子	7 名
11月16日 13:00～ 16:00	・ワークショップ「読めないお知らせ」 ・「多言語支援センター」で翻訳 原文を例にしながら「多言語情報 提供」について、翻訳者の立場 かつ外国人当事者の立場で感じ たこと等 ・意見交換	(財)箕面市国際交流協会 張 茜 (特活)とんだばやし国際交流協会 内海 京子	8 名
11月22日 13:00～ 16:00	やさしい日本語を考える ・みのお医療ネットの立ち上げから 今まで ・やさしい日本語の提案	大阪大学国際交流センター非常勤 講師・みのお外国人医療サポートネ ット元代表 埋橋 淑子	7 名

	<ul style="list-style-type: none"> ・「やさしい日本語」作成ガイドライン ・やさしい日本語に挑戦(ワーク) 	(特活)とんだばやし国際交流協会 内海 京子 田中 栄子	
11月30日 13:00～ 16:00	講義の内容を踏まえ今後の活用を考える。 ・後半の講座の振り返り ・意見交換	(特活)とんだばやし国際交流協会 内海 京子 田中 栄子	7名
12月7日 13:00～ 16:00	・やさしい日本語ワークショップ ・災害時の外国人の状況 ・「やさしい日本語」とか何か ・やさしい日本語の作り方 ・ワークショップ「ポスター作成」	「やさしい日本語」有志の会 杉本 篤子 (特活)とんだばやし国際交流協会 内海 京子 田中 栄子	9名
12月14日 13:00～ 16:00	「防災授業」勉強会 ・ボランティア日本語教師の役割 ・防災授業例 ・教案作成など	「やさしい日本語」有志の会 杉本 篤子 (特活)とんだばやし国際交流協会 内海 京子 田中 栄子	7名
12月21日 13:00～ 16:00	最終まとめ ・講座全体の振り返り ・意見交換	(特活)とんだばやし国際交流協会 内海 京子 田中 栄子	11名



9月28日の様子



11月16日の様子

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

- ・実際に iPad に触れる参加型スタイルで時間の経つのが早く感じられた。
- ・新しい刺激が楽しかった。
- ・iPad の便利さに感動した
- ・多様なアプリを利用すると学習者も楽しんで学べるように思う。
- ・録音できるアプリを使用することで学習者自身が「自分が今何ができるか/できていないか」がよくわかる。
- ・電子ツールをどのように利用するか、が課題。
- ・ゲーム等は少しリラックスタイムに使える。
- ・絵を描いて説明するのが苦手な者にとっては便利かも。
- ・使いこなすには少し時間がかかる。
- ・目が疲れる。
- ・映像を見ながら就職に向けた面接練習やビジネス日本語を学ぶのによいかも。
- ・文字をなぞるアプリ等は書き方を見せることもできるので教えやすい。
- ・ICTだけで授業を続けるのは難しいかもしれないが、少しゲーム的に加えるのにはよい。
- ・今まで使っていた教材(絵カードやテキスト)などの形態は今後は変わってくるかもしれない(電子書籍化されたテキストや、その類)
- ・多文化共生センターの話を聞いて、子どもの日本語、学校での勉強等について考えさせられた。
- ・多言語支援センターでの話など、日本語から各言語に翻訳する際には、それぞれの言語の特徴によってそれぞれの難しさがある。
- ・言語だけでなく、その国の文化、制度の違いなどによって、各言語に翻訳しても理解が難しい事もある。
- ・翻訳者の背景(留学生、社会人、配偶者など)によって、翻訳の困難さも異なる(知っている言語が違う)
- ・「やさしい日本語」について、日本語教室だけでなく、普段から心がける必要がある。
- ・日本人でも知らない言葉、あいまいに理解している言葉がある。
- ・災害時のやさしい日本語は日本語に慣れていない外国人はもちろん、日本人にも非常に有用である。
- ・わかりやすく伝えるノウハウを持っていることは重要。
- ・日本語教室の中で一年に数回くらい「やさしい日本語」を学習に取り入れたいと思う。

② 実施主体からの研修内容結果評価

情報入手・発信ツールとしての「ICT」、情報をどのように伝えるか、ということを中心

に今回の講座を実施した。前半のICT講座ではiPadを中心にインターネットを使った教材の検討、授業での活用を考えることができた。インターネットを活用した勉強法というのは、自主学習的な要素が強いように思っていたが、実際に使用してみると、自主学習教材というよりも何人かで勉強できるようなアプリも多く、学習効果が高いように思われた。また、学習者・支援者共にICTの活用に消極的な人もいるが、実際に使用してみると、そういった不安も少なくなったとの意見も見られた。講座に参加後、実際にインターネットを使用し教室で活用した参加者もいる。また絵カードやテキストをiPadに取り込み、それらを使用することで学習者に提示もしやすいように思われる。今後の授業や学習法のひとつの選択肢としてこのようなICTを加えることができたのではないと思われる。

また、3月に発生した「東日本大震災」から考えられる災害時の専門的な日本語や「生活に必要な日本語」をどのように地域に生活していく外国人に伝えていくかということで、各方面で活動されている方の話をきいた。それぞれの方の話をきくことで日本語指導の多様な側面、一方的な日本語支援ではなく、それぞれの文化や制度の理解や、学習者の背景などを理解したうえで、それぞれに合った学習支援が必要であると感じた。医療面・災害時の「やさしい日本語」の講座からは、日本語支援者は普段から「やさしい日本語」の意識を持ち、必要なこと、大切なことを伝える意識を持つことが大切だと思った。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

今回の講座では、日本語教室のボランティアに限定せず、講座に興味のある人や、日本語教室の学習者にも声をかけ参加を促した。日本語教室でボランティアをしている人は、今回の講座を受けることで、ICTや「やさしい日本語」などの活用、広い視野をもって活動することが期待できる。また、参加した学習者にとっても、ICTなどのを知ることでそれぞれの効果的な学習法を検討、提供することが期待できる。また、東日本大震災時の多言語支援センターでの翻訳作業については、外国人である当事者たちが活躍しており、参加者の中にはそこに協力していた人もおり、彼らの話を聞くことで、コーディネーターとしての役割の再認識、今後の彼らへの生活情報の提供方法を検討していくことに役立った。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

地域での日本語教室だけの活動は限定されているが、このような講座を企画・実施していくことで、他の日本語教室のボランティアとの関わりや情報交換ができた。また、講座内容に日本語教室以外の講師を招いたことも、支援していく上での知識や視野の広がり、関係性をつくることができたと思う。

② 研修後の人材活用

先にも書いたが今回の講座を受けた支援者は、今後の授業の中でICTや「やさしい日本語」などを活用し、それぞれの学習者に合った学習法を提供できるように思われる。また、今回の講座には日本語教室の学習者も参加しており、東日本大震災時の多言語支援センターでの外国人当事者の活躍も目覚ましく、実際翻訳に携わっていた人もおり、自身の活動の場を再認識、また、新たに活動の場の広がりを考えることができたのではないかとと思われる。

(12) 今後の課題

「ICTの利用」として情報入手・発信、また日本語教材としての活用を考えると、入手した情報をどのように学習者に伝えるか、という二本柱を中心に今回の講座を行った。講座の中で学んだことを、実際の授業現場や地域での活動に生かしつつ、多様化する経済の影響や社会の動向に目を向けながら、日本語教室運営、外国人支援に対応しなければいけないと思われる。また、学習者のニーズ(ちょっとしたつぶやき)に目を向け、それに応じた支援者、ボランティアの育成が重要課題と思われる。

全 15 回!!

2011 年度文化庁委嘱事業

日本語ボランティア・スキルアップ講座

「生活に必要な日本語」も専門的な知識や特別な言葉に及びます。その中でも 3 月に発生した「東日本大震災」から考えられる災害時の専門的な日本語を地域に生活する外国人にどのように指導していくかを中心に、地域に生活する外国人にどのように情報を提供していくか考え、日本語学習のポイントを学び、日本語支援者のスキルアップを図ります。

講座の特徴 ①情報入手・発信ツールとしての「ICT」、そして情報を「どのように伝えるか」、の 2 本柱を中心に学びます
②現場での活用を視野に入れ、グループワークを行います。

講座内容 1～8 回・・・「ICTの利用」を、その使い方を含め、情報を入手・発信するツールとして、又日本語教材としての活用、日本語教室での利用法を考えます。
9～15 回・・・前半に学んだことを含め、「どのように学習者に伝えるか」、やさしい日本語、東日本大震災での多言語支援センターの多言語情報をもとに言葉の理解、伝え方を考えます

2011 年 9 月 21 日～12 月 21 日 13:00～16:00

※詳細は裏面をご覧ください。

※場所：(特活) とんだばやし国際交流協会 学習室

※対象者：地域の日本語学習を支援しているボランティアスタッフ、及び関心のある人

※受講料：無料

※定員：15 名

※締め切り：9 月 20 日 (火)

※申し込み・問い合わせ：(特活) とんだばやし国際交流協会

Tel&Fax:0721-24-2622 e-mail: ticc@m4.kcn.ne.jp

※裏面の申し込み用紙に記入し FAX か e-mail、お電話でお申し込みください。